

Book List ~ 沖芸の先生による、今読むべきこの10冊 ~ Vol.15

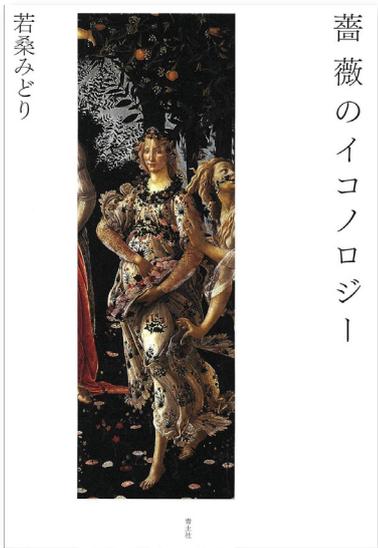
# イメージ・言葉・記憶

## 言葉と図像が記憶を揺さぶりイメージを呼び起こす10冊

選者：尾形希和子

沖縄県立芸術大学美術工芸学部芸術学専攻 教授。専門は西洋中世美術史・図像学。著書に『レオノール・フィニ』『教会の怪物たち ロマネスクの図像学』『西洋の護符と呪い』、共著に『東の妖怪・西のモンスター』『ゆるるおっぱいふくらむおっぱい乳房の図像と記憶』、共訳に『スキタイの子羊』『バロックのイメージ世界』など。

県立芸大の先生が選ぶおすすめ本!



薔薇のイコノロジー

### 薔薇のイコノロジー (新装版)

若桑みどり

青土社 2020年

マニエリスムやバロック美術の研究者であり、美術におけるジェンダーや女性の表象研究の第一人者でもあった著者の、イコノロジー（図像解釈学）研究者としての代表作が本書である。花は重要な象徴や寓意でありながら、西洋美術の歴史においては長らく主要モチーフとはみなされなかった。巨匠の名作だけでなく幅広い視覚的イメージを扱うイコノロジー本来の方法で、ルネサンスの名画からグロテスク文様、ウィリアム・モリスのデザインから日本の生花まで、様々なジャンルの境界を軽やかに横断しつつ一本の花に潜む深淵な宇宙を解き明かしていく。花を通した比較文明論ともなっている本書で展開される豊穡なイメージの世界に浸ってほしい。

702/W19



### 相思樹の歌

西園徹彦

左右社 2023年

刻々と変化する沖縄戦を経糸に、医師の父に伴い東京から来た主人公の少年、師範女子部の女生徒、若き陸軍少尉と音楽教師（この二人はタイトルとなった曲を作詞・作曲した実在の人物がモデル）らの交流を緯糸に、物語は織りなされる。熾烈な戦時下で互いを思慕する若者たちの情感や生き残った者の苦悩が時代を超えてかくも私たちの心を揺さぶるのは、彼らの生を自身で生きながら紡ぐ著者の言葉の力ゆえだ。ときにフィクションはドキュメンタリーよりも効果的にイメージを喚起する。戦争の記憶が薄れゆく中、沖縄戦の記憶の継承についても当事者性が問題にされがちだが、沖縄に住んだことがないという著者のこの小説は「想像力こそが戦争の抑止力である」と教えてくれる。

K/93/N87

## 東の妖怪・西のモンスター 想像力の文化比較



徳田和夫編  
勉誠出版 2018年

不思議な現象を言葉で説明し姿を与えたもの、あるいは「他者」の表象などであった妖怪や怪物は今やゲームなどでもおなじみだが、日本・西洋それぞれで研究が盛んになったのは1990年代である。東西の専門家を集め、これから展開される本格的比較研究の先陣を切ったのが本書である。

388.04/To35

## 歴史を逆なでに読む



カルロ・ギンズブルグ著  
上村忠男訳  
みすず書房 2003年

著者は歴史家だが、美術やイメージに関する仕事も少なくない。キュビズムの誕生をピカソとアフリカ美術の出会いに求める通説にたいして新たな視点を提示する論考でも、タイトルの通り「毛皮を逆なでして別の毛並みを浮き上がらせる」手法が遺憾無く発揮されている。

201/G46

## アレゴリーとシンボル 図像の東西交渉史



R. ウィトカウワー著  
大野芳村・西野嘉章訳  
平凡社 1991年

本書の前半は、実際によく目にされた「鷲と蛇の闘争」というモチーフや、古代ギリシャ人にとって「東方の驚異」であった異形の怪物など、ユーラシア大陸の東西にまたがる図像を扱う。壮大なスケールで図像の伝播を追跡するイコノロジー研究の醍醐味を味わえる。

701/W79

## メディチ家の別荘と庭園



松本典昭  
八坂書房 2023年

日本美術史ならば必ず学ぶ庭園に割く時間は、西洋美術史ではなかなかとれないが、世界遺産にも登録されたメディチ家の別荘と庭園は実に興味深く、フィレンツェに行くならぜひ訪れるよう学生にも勧めている。庭園の植物図鑑も含めたこの本はそのガイドブックとして最適だ。

523.37/Ma81

## 日本の憲法最初の話

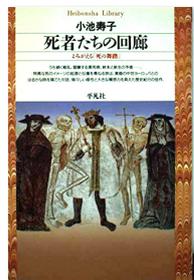


白井明大詩訳と文  
KADOKAWA 2023年

何度読んでも頭に入らない法律の条文だが、白井氏の詩訳は腑に落ちて心に沁みる。やさしい詩の言葉に助けられて、私たちの憲法が掲げる理想の素晴らしさが改めて理解できる。美しい絵に伴われた絵本版『わたしはきめた』も大人子供を問わず読んでもらいたい。

323.14/Sh81

## 死者たちの回廊 よみがえる「死の舞踏」



小池寿子  
福武書店 1990年

中世末期の主題「死の舞踏」の成立を解明するべく北伊・スイス・フランスと移動しながらテキストと図像を丹念に辿る本書は、秀逸な紀行文でもある。今般のパンデミックで再び注目される遙か前から「死」の図像に取り組んできた著者の弱冠34歳の作であることに改めて感じ入る。

702.04/KO31

## アジア図像探検



杉原たく哉著、杉原篤子編  
武田雅哉監修  
集広舎 2020年

中国の図像解釈を専門とする杉原氏もまた、アイヌ首長像や琉球の亀甲墓も含むユーラシア大陸・日本の膨大な図像を追い続けた。著者の急逝後12年にわたる雑誌連載のエッセイを中心に編まれた本書で、読者は遠い図像間の意外な繋がりをわくわくしながら発見するだろう。

702.22/Su34

## 戦争がつくる女性像 第二次世界大戦下の日本女性動員の視覚的プロパガンダ



若桑みどり  
筑摩書房 1995年

著者の研究は常に今を生きる者へのメッセージであった。第二次世界大戦期の大衆向けメディアに描かれた女性や家族の像が、戦争への女性動員に果たした役割を、西洋の聖母子像・聖家族像とも対照して明らかにする本書も、視覚イメージの政治的操作にいま一層留意すべきだと警鐘を鳴らす。

367.21/W19